

## 女子部

### 女性研究者の「母になること」のあれこれ

国立情報学研究所 坊農 真弓

「子供は産まないかもしれない」。結婚して1, 2年たったころ（厳密には「事実婚をして」、詳しくは8月号の私の記事を見てください）、この気持ちが私の中に芽生えていました。研究は追いかければ追いかけるほど実り豊かになっていく仕事です。そして、追いかけるための時間は有限です。30代のうちに研究者としての頭角を現すには出産をしている時間はない、それが30代初めの私の気持ちでした。

そんなある日、小学校からの友人の結婚披露宴に出席しました。父親に手を引かれてバージンロードを歩く花嫁、臨席の方々に立派なお礼を述べる花婿。心温まる友人たちのメッセージ。結婚するまでの私は、結婚式を挙げる当事者の気持ちに寄り添っていました。しかしその日は、新郎新婦の両親になぜかモーレツに感情移入。宴の最後にスポットライトを浴びて挨拶を述べる花婿の父、その横で花束を受け取る母の姿を見て、「子供を産まないということは、私の人生にこういう瞬間はやってこないということなんだ」と寂しく感じました。いろいろと悩んだ末、「何か大きな仕事を成し遂げたら子供を産むことも考えてみよう」と心を新たにしました。

2009年、現在の所属の助教になり、研究者として新たな一歩を踏み出しました。とはいえ、5年間という任期付きのポストです。5年の間に出産育児のために時間を費やしては、その先の仕事に不安です。そこで私は、出産へ舵を切るための「大きな仕事」を、研究費を獲得して自分の望むプロジェクトを立ち上げることに設定。チャンスは半年後にやってきました。JST さきがけの研究者に選ばれたのです。さきがけにはなでしてキャンペーンというシステムがあり、出産育児を全面的にサポートしてくれます。この研究費を獲得したことで、私は出産・育児という未知の世界に向かって思い切り舵を切りました。そして、2010年11月、母になったのです。

私の判断が正しかったのか、まだ分かりません。現に思い通りの研究者人生が歩めているかということ、出産・育児によって諦めることもしばしばあります。夫を始めとする家族のサポートがとても大切です。何より娘（現在4歳）の理解も必要です。最近では、研究者の夫と私のそれぞれの研究会や研究室に連れて行ったり、国際会議に同伴したりしています。先日乗せた国際線では、前の座席の外国人の若い男性がフライトアテンダントに英語で「後ろの子供が椅子を蹴ってシャウトするので寝られない」と私たちの目の前で訴えました。本人に直接謝っても目も見てくれない、そういうこともあります。こういう毎日が続けていては無駄な手間やお金がかかりますし、娘も親も疲れます。しかし、いまはそれしか手だてがないのです。娘が大きくなったとき、自分がそんな毎日を過ごしてきたことをどのように思うでしょうか。答えはまだまだ出ません。

最近、ある生命保険会社が「女性研究者支援」を行っているというポスターを見ました。未就学の子供を持つ女性が応募し採択されれば、研究費が支給されるというもの。この研究費はとても使い勝手がよさそうで、育児費用（臨時保育料、ベビーシッター料など）にも使えるようです。一般的な研究費はこういう使い方はできません。私が皆さんにお願いしたいことは、「出産育児に対する暖かいまなざし」です。

娘の寝顔を見ながらこの原稿を書くという、今この瞬間を、私は心温まるものと感じています。女性研究者は誰も「母になる」かどうかの判断をするときが来ます。そのときに、先輩女性研究者がどういう想いを巡らせたのか、共有できる場所があればいいなと思います。

.....

学生時代にやっておけばよかったことはなんですか？ と質問されたら、「海外で研究したり留学する経験をもっとすればよかった！」と答えると思います。

博士課程のときに、日本学術振興会の若手研究者海外派遣事業に採択され、博士取得後アメリカのジョージア工科大学へ客員研究員として1年間滞在していました。昔から海外志向が強かったわけではありません。留学を志したきっかけは、修士1年生のときに初めて国際学会に参加したときの経験です。私が学生だった頃は情報科学の分野の女子学生や若手女性研究者がまだまだ少なかったのですが、国際学会に参加したときに、たくさんの女子学生や女性研究者がいて驚いたのを今でも覚えています。興味深い研究をされていたり、積極的に議論し学会をリードし活躍されている方を目の当たりにし、自分もああいう風になりたい、英語で積極的に議論したり、国際学会でも名前を憶えてもらいたいと思ったのがきっかけでした。また当時の指導教官である椎尾教授が10年ほど前に同じジョージア工科大学に1年間滞在していたのですが、当時の様子や研究生生活を本当に楽しそうに、いろいろなエピソードをいつも話してくださり、ジョージア工科大学留学への想いが日を追うごとに増していったのもきっかけです。私は学部4年生から博士課程卒業まで、同じ研究室で研究をしていたということも関係しているかもしれませんが、新しい環境に自分の身を置き、研究することで研究成果だけでなく、いろいろな気づきを得た気がします。一番驚いたのがほ

かの国の人たちが非常に積極的でアグレッシブだったことです。英語ができるできないは関係なく、自分をアピールする力がすごいこと。また研究の進め方、求められているものの違いを感じました。アメリカの大学では修士の学生は博士課程の学生の研究プロジェクトの手伝いをするという役割も果たすので、博士課程の学生は研究能力だけでなく、マネジメントや管理、人をどう使って自分のプロジェクトを進めるかということも求められていることに驚きました。

私は日本に帰国後、もう一度海外に行つて研究をしたいと思っていたのですが、子供ができたり、結婚したことで難しくなっていました。なので、比較的自由がきく、学生のうちに短くてもいいので海外へ留学したり、研究されることをおすすめします。学生を卒業してしまうと資金獲得や機関の受け入れ、仕事の状況などで難しいこともあります。大学の奨学金・留学制度は枠が空いていると聞きますし、財団法人の学生向け留学支援なども探すといろいろ出てきます。受入先探しについては、指導教官に紹介してもらったり、学会に積極的に参加しほかの先生とコネクションを持ったりすることで探せるかと思います。一度挨拶をして顔や研究プロジェクトを知ってもらえると、まったく知らないよりは、受け入れてもらいやすいと思います！ ぜひ積極的に学会や懇親会に出て、留学先を見つけたり、知り合いを増やし、海外での研究生生活を楽しんでみてください。

### 書評・会議レポート募集のお知らせ

情報処理学会会誌編集委員会では、会誌「情報処理」に掲載する書評、および会議レポートを広く会員の皆さまから募集しています。

1. 募集対象 次の2種類の記事について、原稿を募集します。

- a) 書評 : 過去2年間に出版された、本学会員にとって有益な図書についての紹介もしくは批評。
- b) 会議レポート : 情報処理に関する国際規模の会議・大会の報告など、時事性が高く、本学会員に広く知らせる価値のある話題。

2. 応募資格

原則として本学会員に限ります。

3. 応募の手続き

- 1) 表題 : 書評の場合は、著者名、書名、ページ数、発行所、発行年、価格、ISBNを書く。  
会議レポートは、見出しを書く。書評、会議レポートの別を左肩に書く。
- 2) 評者名 (会議レポートの場合は筆者名)・所属・評者連絡先 (住所、E-mail、Fax など) の記載を忘れずに。
- 3) 本文 : 書評は1,500字以内または3,000字以内 (1または2ページ)。会議レポートは2,100字前後で書く。
- 4) (必要であれば) 参考文献、付録、図、表をつける。詳しくは「原稿執筆のご案内 / 書評・会議レポート」(<http://www.ipsj.or.jp/magazine/sippitsu/shohyoneews.html>) を参照してください。

4. 原稿の取扱い

投稿された原稿は会誌編集委員会で審査し、採否を決定します。採用にあたっては原稿の修正をお願いすることがあります。あらかじめご了承ください。

5. 照会／応募先 一般社団法人 情報処理学会 会誌編集部門 E-mail:editj@ipsj.or.jp